

派遣者番号	R4K25	氏名	米山 繁
研究主題 —副主題—	小学校英語検定教科書 デジタル教材の中のリスニング活動の分類と 指導方法の実態について		
派遣先大学	東京学芸大学 教職大学院	指導担当者	粕谷 恭子
所属	江東区立南陽小学校	所属長	佐藤 勝行

キーワード： 小学校英語 デジタル教材 リスニング活動 分類 指導方法

要旨： 本研究では2つの研究課題を設定し、検証した。研究課題①では、小学校英語検定教科書 *CROWN Jr. 5*, *CROWN Jr. 6*(三省堂, 2020) デジタル教材のリスニング活動は、どのように構成されているのか分類・分析を行った。研究課題②では、リスニング活動でどのような指導を行っているのか、また、効果のあった指導や課題は何かを明らかにした。

その結果、研究課題①では、リスニング活動は内容理解に関するタスクが全体の4割を占め、5年生では二人以上の会話によるやり取りが、6年生では一人の話者によるスピーチが中心に設定されていた。研究課題②では、教員はリスニングを指導する際、聞こえた単語を確認し、音声を真似させ、イラストの人物が話している内容を予想させていることが明らかになった。一方で、デジタル教材のリスニング指導に対して、教員が難しさを感じていることも明らかになった。

1. はじめに

小学校英語教育を取り巻く流れとして、文部科学省や東京都教育委員会は外国語科を指導している教員の研修を拡大し、専科教員を少しずつ増やし、新任教員に一定程度の英語力を有すること、ICTを活用した授業改善を現場に求めていることが考えられる。中でも特に、学校現場で使用されているデジタル教材の構成やその活用法などについての知見が求められる。

2. 先行研究

小学校英語検定教科書については、全般、語彙、思考力、話すこと（やり取り）といった観点からの分析が行われている。しかし、児童がデジタル教材の音声聴くリスニング活動についての分析は行われていない。また、リスニング能力が英語能力に及ぼしている影響は大きいですが、リスニングに関する研究、特に小学校段階における研究が少ない。

3. 研究の目的

本研究は二つの研究課題から成り立っている。研究課題①では、東京都の複数の地区で使用されている小学校英語検定教科書 *CROWN Jr. 5*, *CROWN Jr. 6* (三省堂, 2020、以下 *CJ5*, *CJ6*) デジタル教材のリスニング活動は、どのように構成されているのかを分類・分析を行うことで明らかにすることが目標である。

RQ1：*CJ5*, *CJ6* デジタル教材のリスニング活動はどのように分類できるか。

研究課題②では、*CJ5*, *CJ6* デジタル教材の中のリスニング活動を指導している、もしくは指導経験のある公立小学校教員がデジタル教材のリスニング活動でどのような指導を行っているのか、また、効果のあった指導や課題は何かを明らかにすることが目標である。

RQ2：小学校外国語科指導教員はリスニング活動の際、どのような指導を行っているか。

4. 研究の方法・手順—課題研究①

CJ5, *CJ6* に含まれているデジタル教材の音源を調査者がテキストデータとして書き起こし、リスニング活動を分類した。本研究でのリスニング活動とは、「リスニングを行った後に、教師の指示などにより、児童が取り組む英語学習活動」と定義している。

5. 結果と考察—課題研究①

リスニング活動の構成で共通する点はどちらも内容理解（イラストの意味理解）のタスクが全体の約4割を占め（図1）、最も多く設定されていた点である。これは教科書制作者が英語初学習者である小学校高学年の児童にとっての内容理解を、イラストと音声を結び付けるタスクを中心と捉え、リスニング活動を設定していると考えられる。これらのことから、外国語指導を担当する教員は、学年によってデジタル教材の中のリスニング活動の構成が内容理解中心に設定されており、その内容は5年生ではやり取り・会話文が中心であり、6年生ではスピーチ文が中心に変わることを理解して指導していくことが重要であると考えられる。

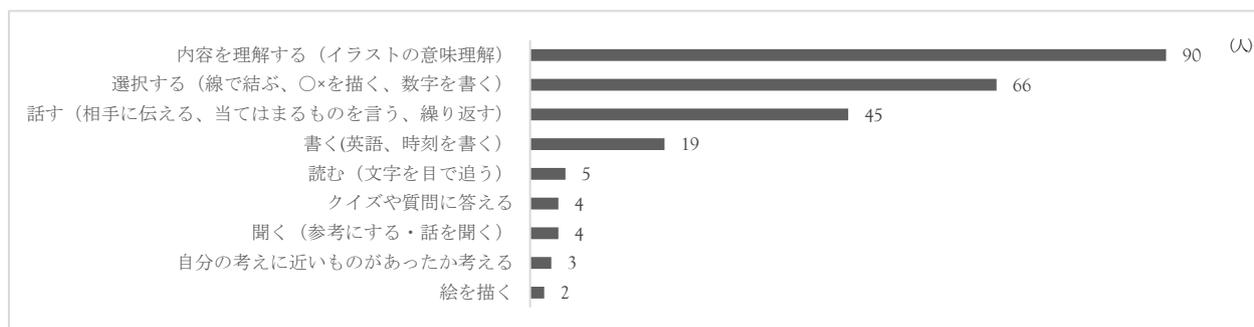


図1 *CJ5* リスニング活動 タスク別

6. 研究の方法・手順—課題研究②

都内公立小学校で *CJ5*, *CJ6* を指導している、もしくは指導経験のある教員 41 名が調査に参加し、令和 4 年 10 月から 11 月にかけて、*Google Forms* を用いて調査を行った。

7. 結果と考察—課題研究②

リスニング活動の指導実態の結果から *CJ5* と、*CJ6* に共通して多かったものは①聞こえた単語を確認する、②聴きながら、音声をまねさせる、③イラストの人物が何を話しているか内容を予想させるであった(図 2)。多くの教師は内容理解の前段階として、児童に何が聞こえたのかを尋ね、明確にし(確認)、聞こえた音をそのまま表出するよう促し(真似)、イラストから話されている内容を考え、予想(想像)させていることが分かった。

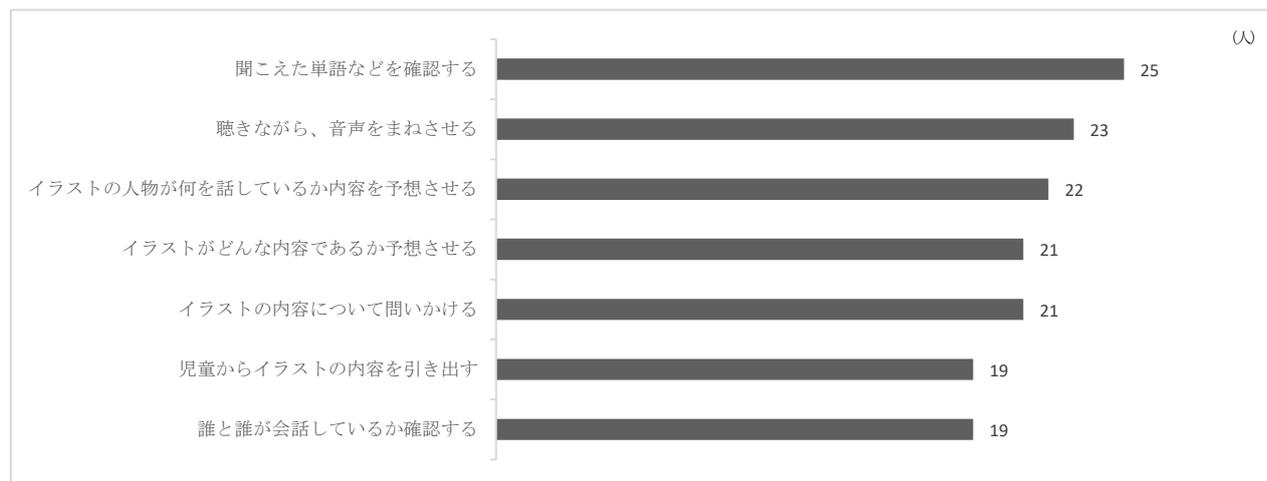


図 2 *CJ5* リスニング活動(内容理解)の指導

8. 結論

研究課題①では、リスニング活動は *CJ5*, *CJ6* 共に内容理解に関するものがタスク全体の 4 割を占め、最も多く設定されていたが、リスニングのタイプは 5 年生では 2 人以上の会話によるやり取りが、6 年生では一人の話者によるスピーチが中心に設定されていた。

研究課題②では、外国語指導担当教員はリスニング活動を指導する際、聞こえた単語などを確認したり、音声を真似させたり、イラストの人物が話している内容を予想させたりしていることが明らかになった。一方で、教員は、デジタル教材のリスニング活動に対応する教員が指導に難しさを感じていることも自由記述から明らかになった。

9. 主な参考文献

酒井英樹ほか(2020). 『Crown Jr. 5』『Crown Jr. 6』三省堂.